

栗駒山の火山活動解説資料（令和元年5月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
30日の噴火警戒レベル運用開始に伴い、噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）を公表しました。予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～9）

監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

14日から15日にかけて実施した現地調査（15日は岩手県及び一関市と合同）では、前回（2018年8月）及び前々回（2018年5月）と比較して、ゼッタ沢上流、ゆげ山、地獄釜の地熱域の状況に特段の変化はみられませんでした。昭和湖及びその周辺では、地熱域はみられませんでした。引き続き硫化水素が発生していることを確認しました。

27日に岩手県の協力により実施した上空からの観測では、ゆげ山、地獄釜、昭和湖及びゼッタ沢上流に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図10）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図11、13）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年6月分）は令和元年7月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 栗駒山 山頂周辺の状況（5月13日）
 ・大柳監視カメラ（山頂の南東約20km）の映像です。

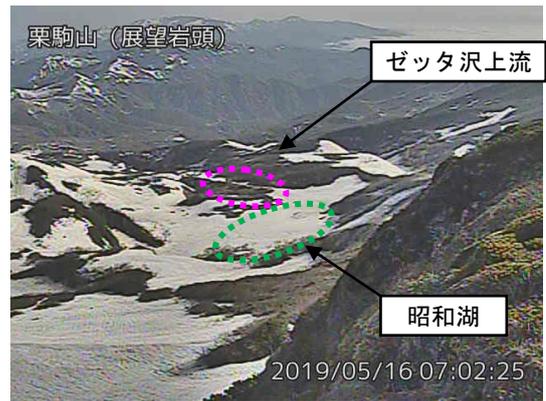


図2 栗駒山 昭和湖及びゼッタ沢上流
 周辺の状況（5月16日）
 ・展望岩頭監視カメラ（昭和湖の南南西約900m）の映像です。

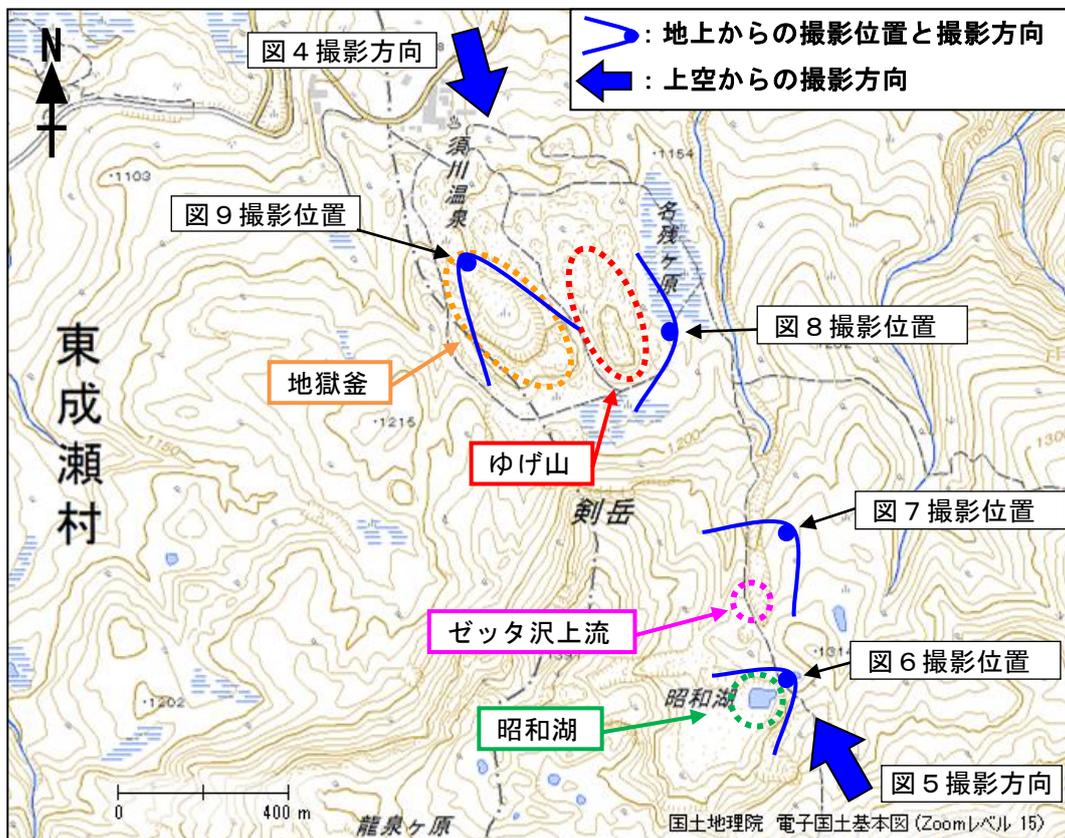


図3 栗駒山 昭和湖、ゼッタ沢上流、ゆげ山、地獄釜の写真と地表面温度分布撮影位置及び撮影方向

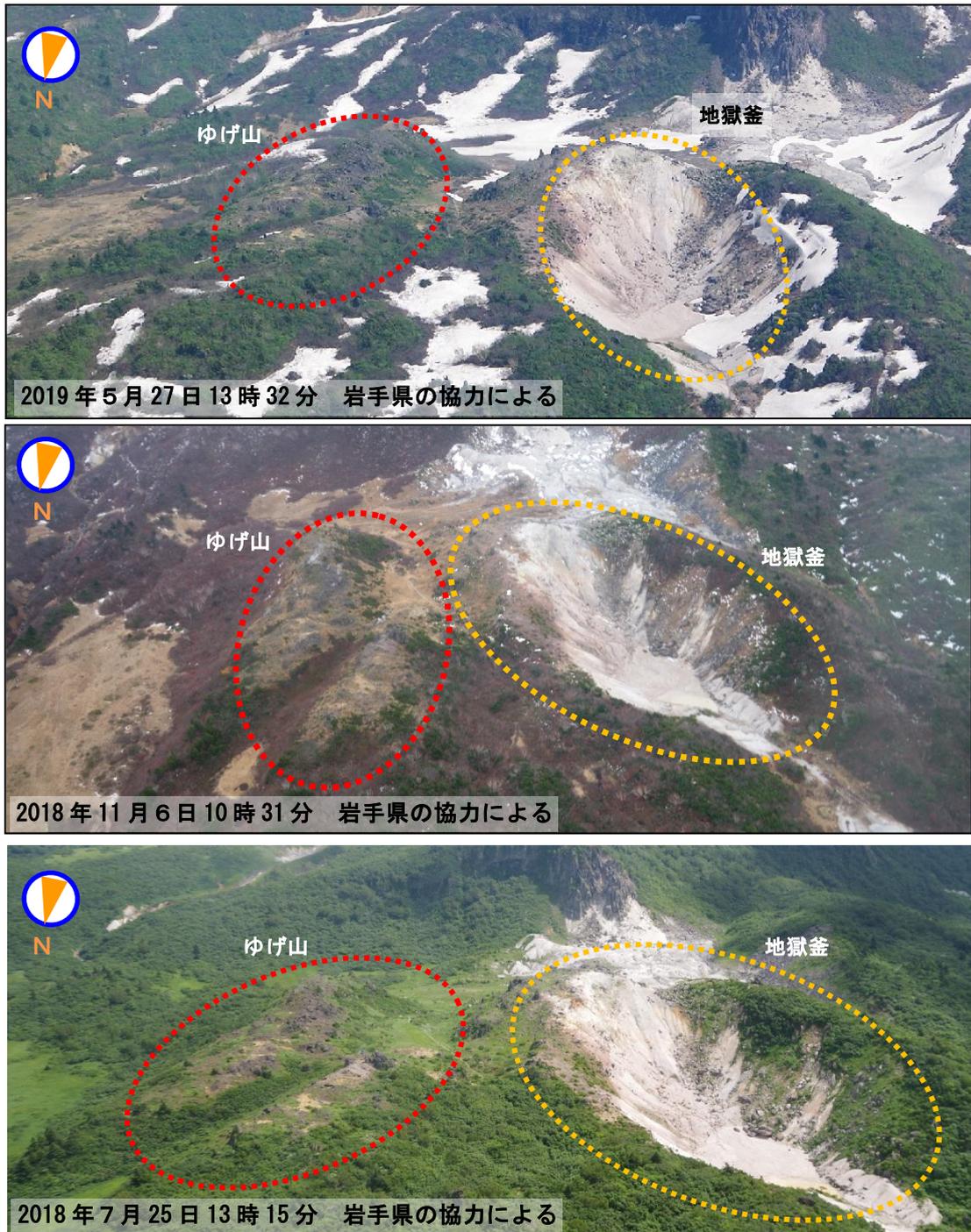


図4 栗駒山 上空から撮影したゆげ山及び地獄釜付近の状況

- ・噴気は確認されませんでした。
- ・図中の破線の色は図3に対応します。

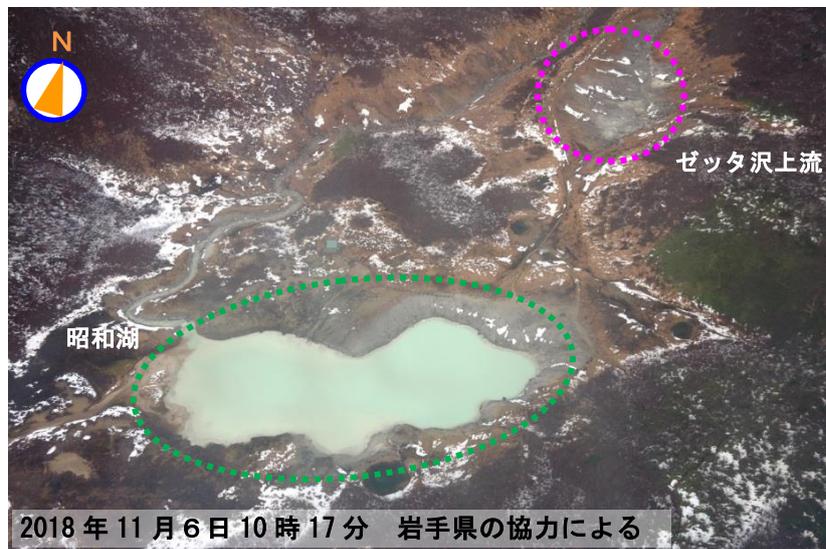
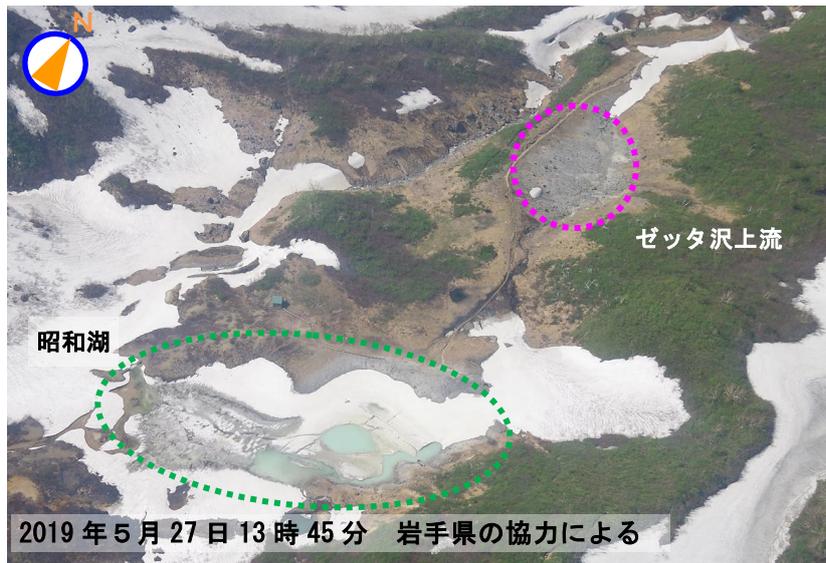


図5 栗駒山 上空から撮影した昭和湖及びゼッタ沢上流の状況

- ・噴気は確認されませんでした。
- ・図中の破線の色は図3に対応します。

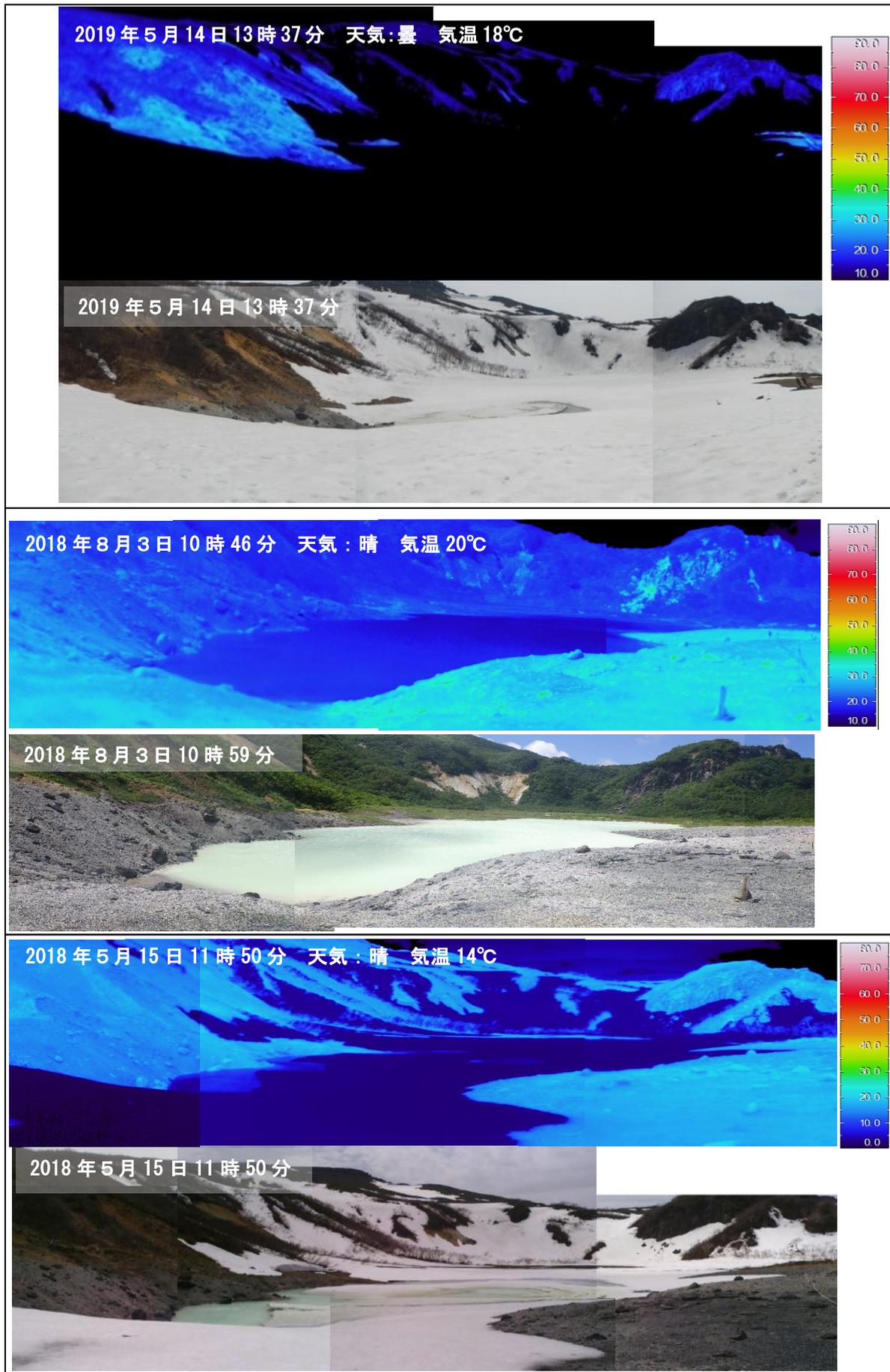


図6 栗駒山 北東から撮影した昭和湖の状況と地表面温度分布

- ・昭和湖及び湖岸に地熱域は認められません。
（※温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。）

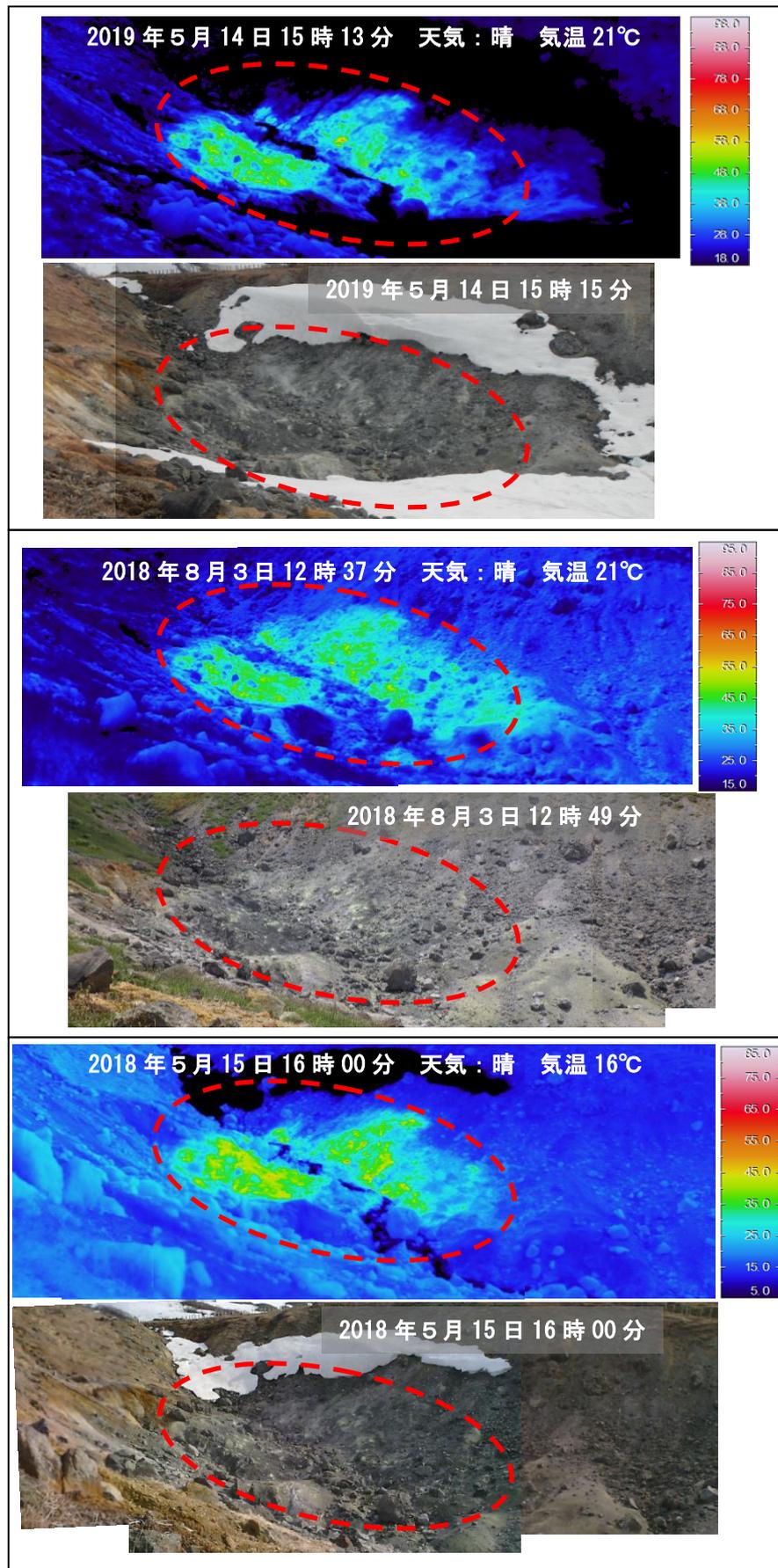


図7 栗駒山 北東から撮影したゼッタ沢上流の状況と地表面温度分布

・地熱域（赤破線）の状況に特段の変化はみられません。

（※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。）

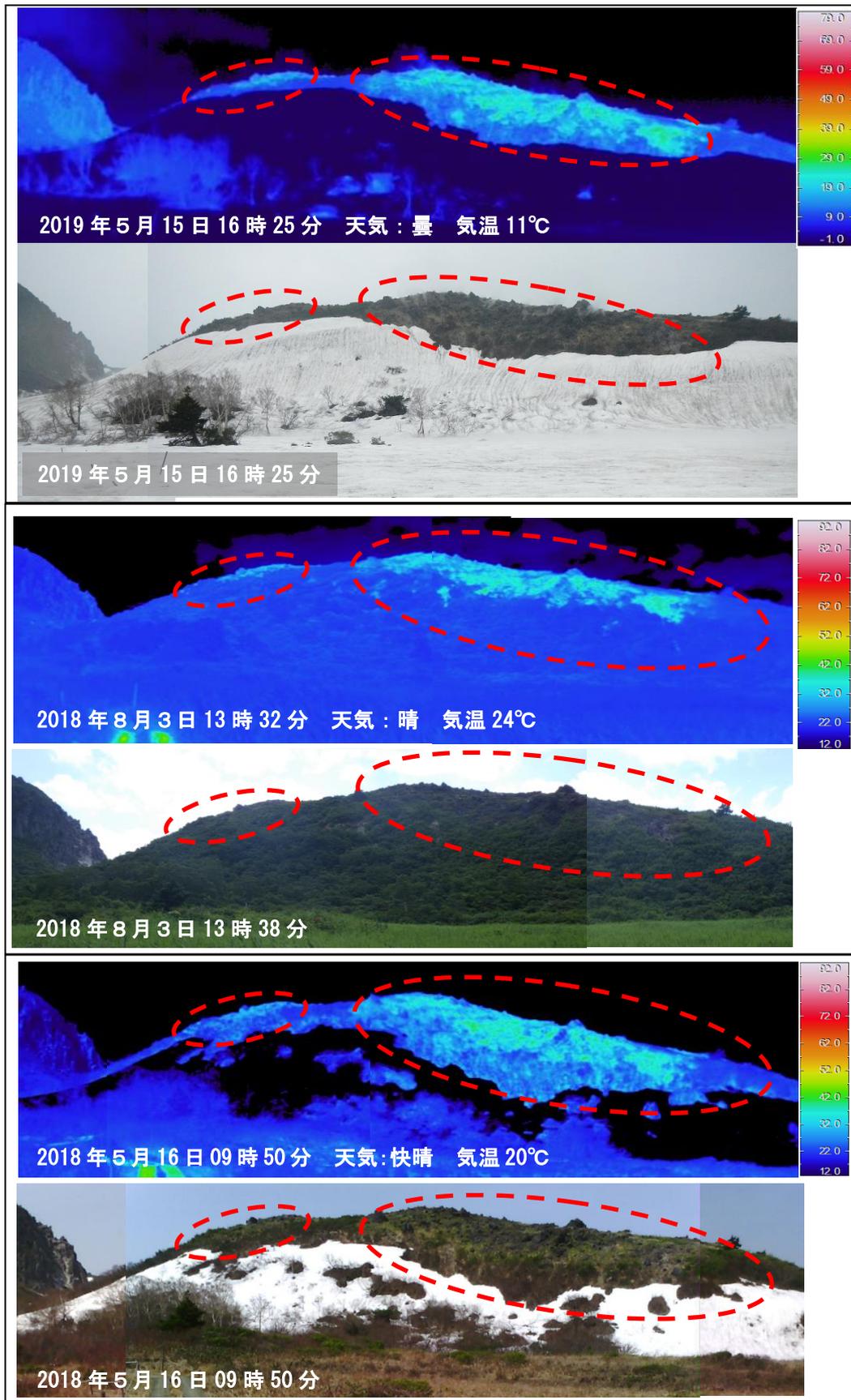


図8 栗駒山 東から撮影したゆげ山の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤破線）の状況に特段の変化はみられません。
（※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。）

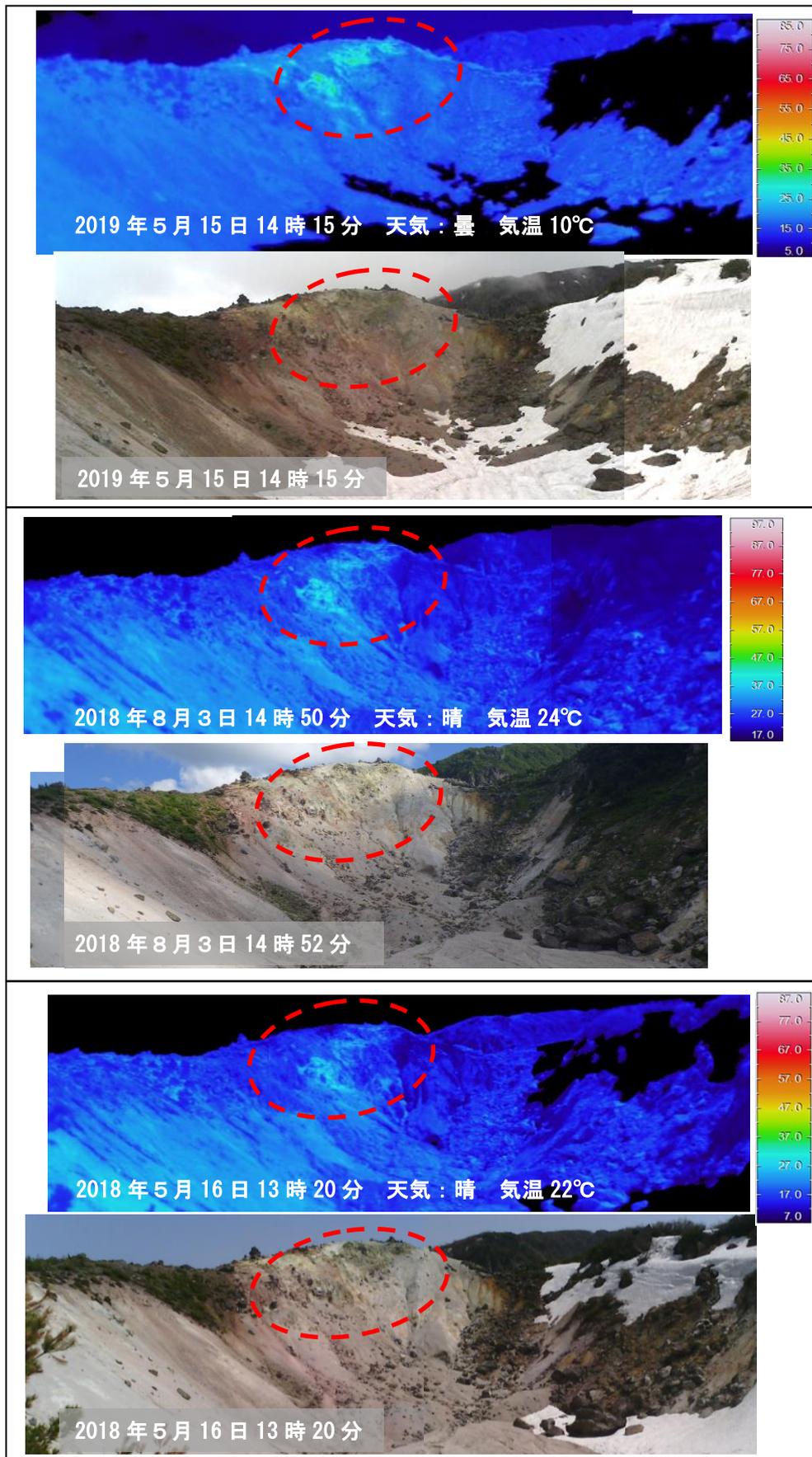


図9 栗駒山 北西から撮影した地獄釜の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤破線）の状況に特段の変化はみられません。
（※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。）

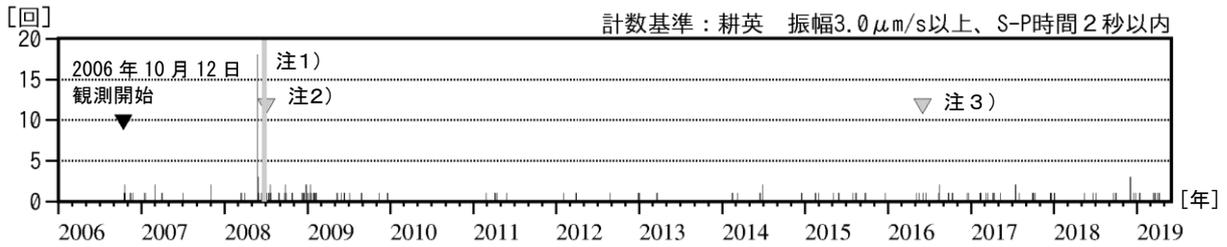


図10 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2019年5月）

- ・基準観測点の変更は次のとおりです。
- 観測開始 2006年10月12日～旧耕英観測点
- 注1) 2008年6月14日～7月2日18時（図の灰色部分）まで「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能
- 注2) 2008年7月2日～小安^{おやす}観測点（2010年10月8日まで）及び広域地震観測網
- 注3) 2016年6月1日～耕英観測点

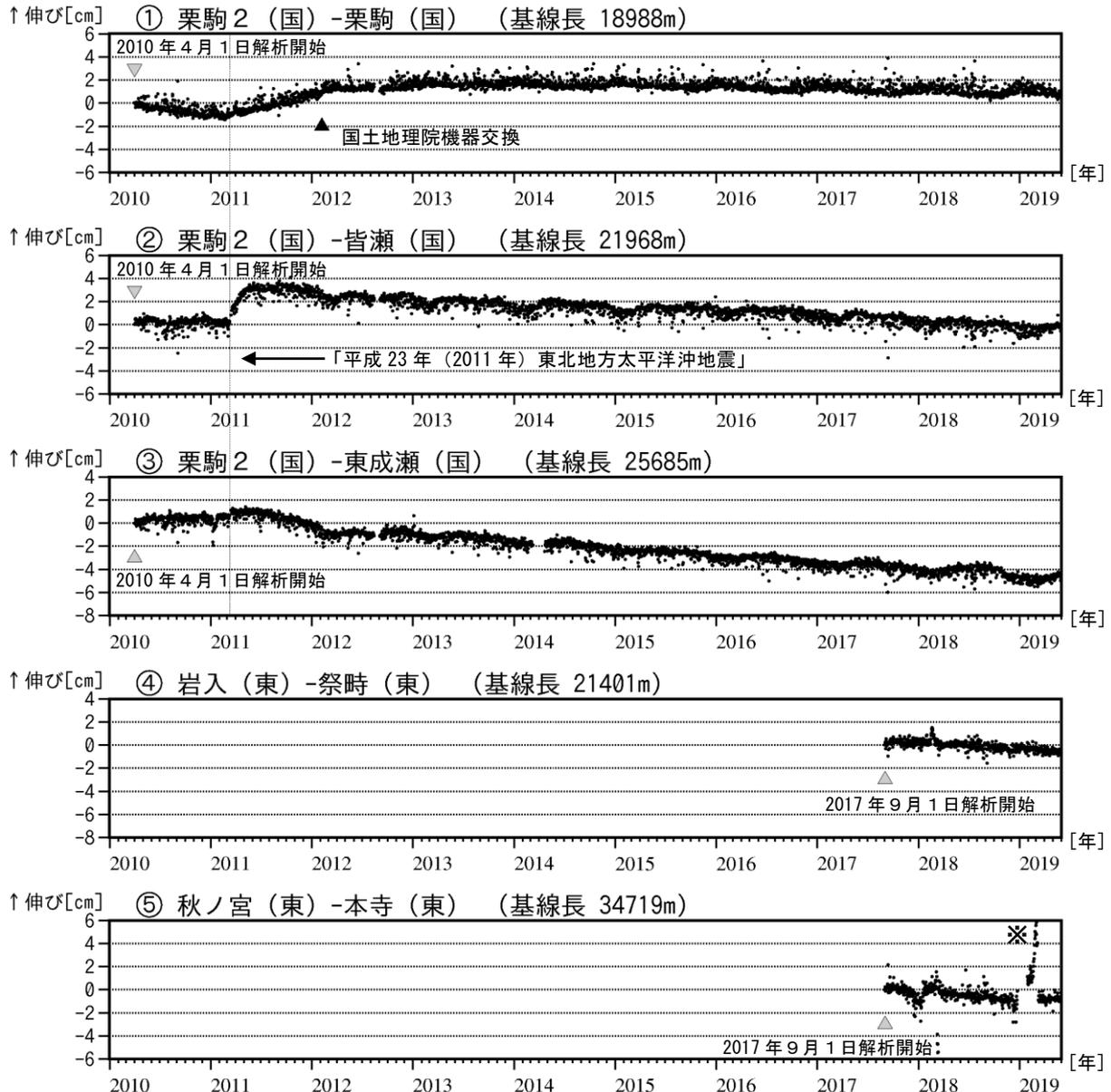


図11 栗駒山 GNSS 基線長変化図（2010年4月～2019年5月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑤は図13のGNSS基線①～⑤に対応しています。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。
- ※秋ノ宮(東)観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

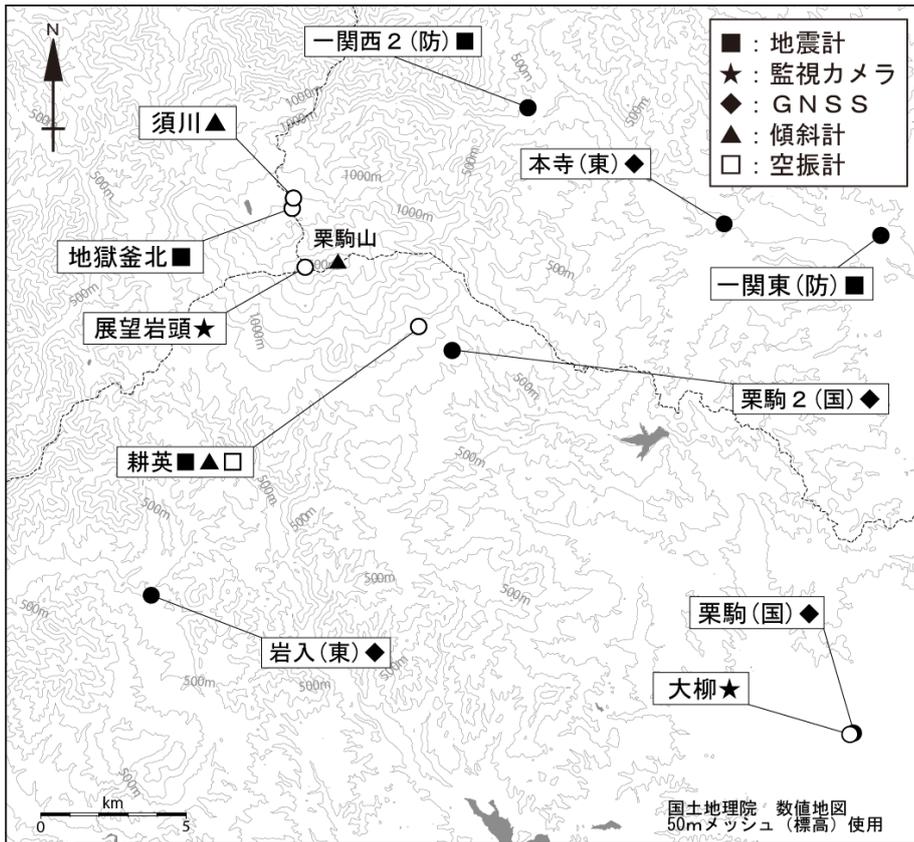


図12 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

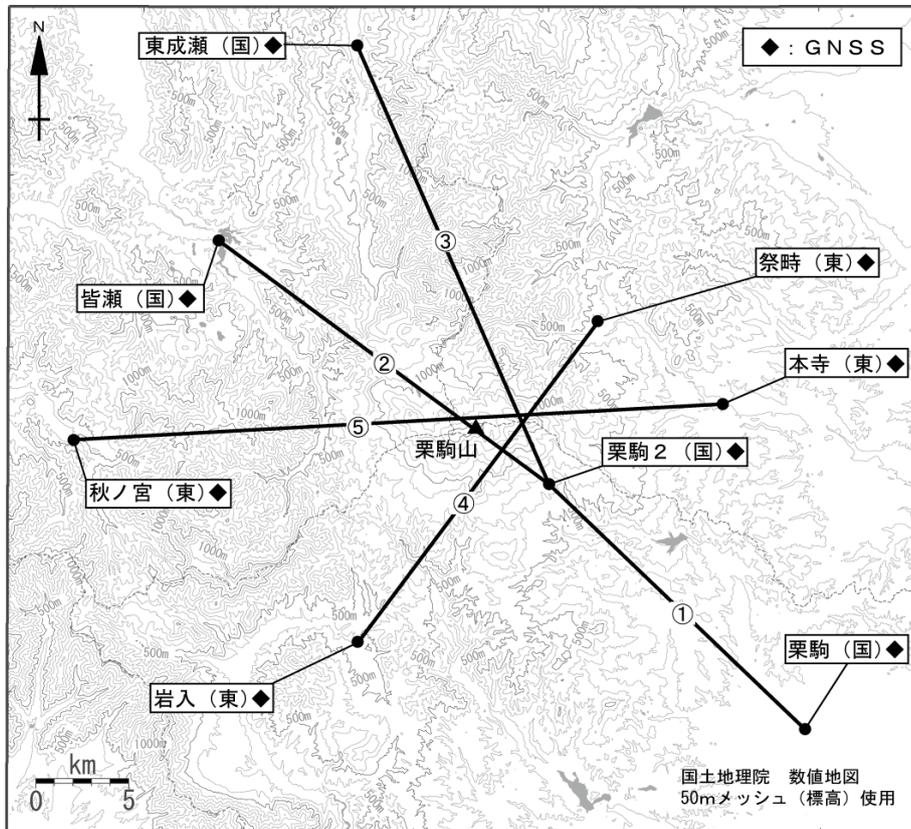


図13 栗駒山 GNSS 観測基線図

小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学